

72 A 11

特 許 庁

実 用 新 案 公 報

実用新案出願公告

昭27-9879

公告 昭 27.11.13 出願 昭 27.5.13 実願 昭 27-12235

出願人 考案者 柳 本 瀧 次 郎 大阪市西区江戸堀南通1の15
代理人 弁理士 安 達 世 股 外1名

(全2頁)

ブレーキクラツシャー用歯板

図 面 の 略 解

図面は本案ブレーキクラツシャー用歯板を示すものであつて第1図は一部の横断面図、第2図は同碎石状態を示す横断面図、第3図は従来の歯板の碎石状態を示す横断面図である。

実用新案の性質、作用及効果の要領

主体1の面に形成した歯2の山部に沿つて突条3を設けたブレーキクラツシャー用歯板に於て歯2の谷部に沿い凹溝4を設け此の凹溝4の両側壁5は前記突条3の基部から溝底面6に向つて漸次溝幅が縮少する様に傾斜させたものである。

第1図中鎖線で示した様な連続山形の歯2の山部に突条3を設けたブレーキクラツシャー用歯板が突条3を有せない連続山形の歯板に比し、長期の破碎能力を持続することは既に知られている所であるが此の歯板も突条3が磨滅した後は単なる連続山形の歯板と其の破碎能力に於ては何等異なる所がないのである。即ち第3図に示す様に鉱石Aに加はる破碎力Pが歯頂部の幅B₁に分配荷重として加はりスパンL₁にて支持せられる鉱石Aに加はる最高彎曲モーメントは歯頂部の磨滅の度を増すに従つて急激に減少して破碎能力は著しく

減殺せられる

然るに本案は前記した様に歯2の谷部に沿つて凹溝4を設け其の両側壁5は突条3の基部から溝底面6に向つて漸次溝幅を縮少させてあるから突条3が磨滅した後に於ても第2図に示す様に鉱石Aに加はる破碎力Pは第3図の場合の歯頂部の幅B₁より遙かに狭い幅Bに集中荷重として加はり鉱石を支持するスパンLも第3図の場合のL₁より遙かに広く鉱石に加はる最高彎曲モーメントは第3図の場合の様な急激な減少を来たさない此の様にして凹溝4に挟まれた歯の部分が残んど磨滅する迄は破碎能力を持続することが出来るから歯板の寿命を著しく延長し得る効果のあるものである。

登 録 請 求 の 範 囲

図面に示す様に主体1の面に形成した歯2の山部に沿つて突条3を設けたブレーキクラツシャー用歯板に於て歯2の谷部に沿い凹溝4を設け此の凹溝4の両側壁5は前記突条3の基部から溝底面6に向つて漸次溝幅が縮少する様に傾斜させた構造。

DOCUMENT- F

STEVEN M. KASSUBA

App/Ser No. 09/919,277

Filed: JULY 31, 2001

Group Art: 3725

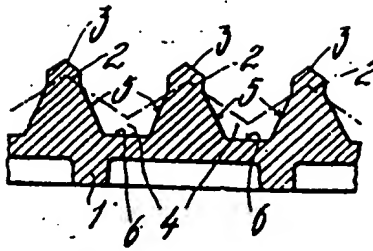
Exam. W. DONALD BRAY

7

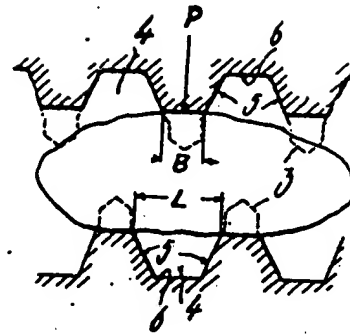
(2)

實用新案出願公告
昭27-9879

第1圖



第2圖



第3圖

